

大阪・関西の底力を追い風に大きな成果 ツーツリズムによる「地方創生」の可能性示す

「ツーツリズムEXPOジャパン(TEJ)2019 大阪・関西」が10月24日から27日までの4日間にわたり、大阪・南港北のインテックス大阪と周辺施設で開催されました。初めて東京を離れたTEJは、地元の熱意と底力を追い風に大きな成果を収めています。

出展コマ数も昨年の4.3倍に拡大しており、TEJへの期待の高さを感じる」と語りました。

収入・来場者とも想定上回る

出展企業・団体は過去最高規模に

「TEJ2019 大阪・関西」には、世界100カ国・地域と47都道府県から過去最高の1475に及ぶ企業・団体が出展。展示商談会の件数は前年比13%増の8392件に達し、会期中の来場者も15万人以上を数えました。

大阪・関西開催を振り返って

潜在的なパワーをTEJで具現化

TEJ実行委員会の委員長も務める田川博己JATA会長は主催者記者会見で、「国際的なビッグイベントが続く『天の時』と『ゲートウェイ』大阪・関西という『地の利』、地元の大協力が」という『人の和』によって、大阪関西の潜在的なパワーが具現化される」と強調。

「VISIT JAPAN トラベル&MICEマート(VJTM)」について、海外バイヤーとメディアを対象とする「関西視察プログラム」を通じて「大阪・関西エリアの認知度アップにつなげたい」と意欲を示していました。

主催事務局代表のJATAの越智良典理事・事務局長は、「出展協賛・来場収入により8億円以上を得て、来場者数も15万人を超えるなど想定を上回る成功を収めた」と総括し、「営業広報・商談・来場に尽力いただいた関西支部と全国の会員各社」への感謝を述べた上で、その成果として、「二つ目は、関西マーケットの底上げと開催地社員の啓蒙ネット

ワークづくりや一般への需要喚起、二つ目は、全国どこでも開催可能な『必勝モデル』の完成」を挙げました。具体的には、(1)東京と地元バイヤーの双軸体制による展示商談会の定着、(2)大臣会合・展示商談・セミナーの効果的な関係づけ、(3)IRやテーマ展示など最先端の取り組み紹介、(4)JATA独自事業のPR(ノート

JNTOの清野智理事長は、大阪で初めて開催される



来賓として登壇した観光庁の田端浩長官



開会式で挨拶する日観振の山西健一郎会長



JATAの田川博己会長



JNTOの清野智理事長



大阪観光局の福島伸一会長

ルダム大聖堂キャンペーンをあげています。

地元関係者の団結が原動力に

ツーリズムEXPOジャパン推進室の早坂学室長は、「TEJが東京の5年間で一定の完成形に到達し、『観光で地方創生を』という大前提に基づいて、観光が地域を活性化させるモデルになるよう準備を進めた」と振り返り、「関西・大阪の皆さんも観光を通じた地域活性化を強く望んでいたことが『TEJ2019 大阪・関西』の成功につながった」と述べて

います。

早坂室長は、「旅行業界やツーリズム産業の関係者のみならず、経済界や自治体も一致団結して、『TEJ2019 大阪・関西』を絶対に成功させるといふ思いで、地元がまとまっていたことこそ、15万人を超える来場者を集めた原動力」と強調。「TEJに期待するだけでなく、自らも積極的に協力しようという気概を地元関係者に共有していただき、一般日に数千人規模という開場待ちの列が実現された」と語っています。

開会式

地域を元気づけるツーリズム

開会式で主催団体を代表して挨拶した日観振の山西健一郎会長は、6回目を迎えるTEJ



UNWTOの
ズラブ・ポロリカシュヴィリ事務局長



基調講演を行った安藤忠雄氏

を初めて東京以外で開催したことについて、「ツーリズムが地域を元気づける大きな役割を果たすことを証明し、そのレガシーを来年の『TEJ2020 沖縄リゾート展』にも引き継いでいく」とその意義を強調しました。

山西会長は、「国内でも最も勢いのある地域であり、開催地の熱い支援によって『TEJ2019 大阪・関西』も実現した」と指摘しています。

G20大阪サミットの「G20大阪首脳宣言」でも観光が世界経済の重要な牽引役となることなどが盛り込まれたことも踏まえ、山西会長は「ツーリズムの持つ力と責任をいかに発揮するかというテーマについて参加者に提案し、観光を通じて平和な世界の実現に寄与する」と語りました。

関西ゲートウェイで双方向交流

来賓として登壇した観光庁の田端浩長官は、2018年の国際観光旅客数が前年比5.6%

増の14億人に達して9年連続で増加したことに言及し、「観光は経済だけでなく、社会共生、環境保護、文化、平和・安全に大きく貢献するものだ」と強調。「観光先進国を目指すうえで、諸外国との双方向交流により相互理解を深め、世界に開かれた国にする」と語り、「今回のTEJを通じて、世界の注目が集まる関西をゲートウェイに双方向の交流拡大を」と呼びかけています。

また、主催者記者会見に出席した国連世界観光機関（UNWTO）のズラブ・ポロリカシュヴィリ事務局長は、「ラグビーワールドカップ（RWC）に続く2020年の東京オリンピック・パラリンピックを通じて、新しいスポーツツーリズムをリードしてほしい」と述べ、「来年のTEJでは、沖縄から海洋ツーリズムも発信される」と期待を示しました。

基調講演

建築家の安藤忠雄氏が登壇

開会式に続いて行われた基調

世界19カ国から観光大臣などが出席した第3回TEJ観光大臣会合

講演には、大阪生まれで世界的な建築家として知られる安藤忠雄氏が登壇。2025年の「大阪・関西万博」が「海の上に浮いている夢洲」で開催されることを踏まえ、「『どこにもできない観光』を研究して『世界一素晴らしい博覧会』にしてほしい」と呼びかけています。

観光大臣会合

人と文化による地域活性化を議論

世界19カ国から観光大臣・観光行政トップと国際観光関連組織の4団体が参加した第3回TEJ観光大臣会合では、「人と文化による地域活性化」をテーマに議論。UNWTOのポロリカシュヴィリ事務局長は、「加盟国同士の情報共有を行うだけでなく、先進国から途上国への知識移転も必要だ」と強調。「今回の観光大臣会合を受け、地域観光を促進する『ルーラル・ツーリズム』についてのプロモーションを強化する」ことも明らかにしています。

※「基調講演」と「第3回TEJ観光大臣会合」の詳細は、TEJの公式サイト(<https://www.t-expo.jp/biz/press/tejdailynews.html>)でご覧いただけます



ジャパン・ツーリズム・アワード各賞の受賞者と関係者

【ジャパン・ツーリズム・アワード】

国土交通大臣賞は 農泊による地域活性化

開会式に続いて行われた第5回「ジャパン・ツーリズム・アワード」の表彰式では、国土交通大臣賞、観光庁長官賞、エクセレントパートナー賞、学生が選ぶジャパン・ツーリズム・アワード、DMO推進特別賞、UNWTO倫理特別賞の皆さんが表彰されました。

「農泊と世界をつなぐ地域活性化サービス」で新たに制定された国土交通大臣賞を受賞した株式会社百戦練磨は、訪日客を対象に新しい宿泊スタイルを提案。地方へのインバウンド誘致の「切り札」として評価されました。同社の上山康博代表取締役社長は、「日本の伝統的な文化体験と農村地域の人々との交流を楽しむ農村民泊についてコンサルティングを行い、FIT化やインバウンド促進をサポートしてきた」とコメントしています。



人力車に乗ってウェルカムレセプションに登場したフィリピンのベルナデット・ロムロ・ブヤット観光大臣

【WELCOME RECEPTION】

参加者や関係者が 一堂に会して交流

「ツーリズムEXPOジャパン2019 大阪関西」の参加者や関係者が一堂に会したレセプションでは、菅義偉内閣官房長官が寄せた祝電が披露されました。

菅官房長官は「観光を地方創生の柱、成長戦略の切り札と位置付けている」と強調し、「大阪関西では2025年の万博など様々なイベントも予定されている」と言及。「頑張る地方を応援し、より多くの旅行者に全国各地を訪れていただけるよう、政府においても全力を挙げていく」考えを表明しています。

内外のVIPが紫色の法被を身に着けて「だんじり」の前に勢ぞろいし、記念写真に納まりました。(表紙) 外国人を含む参加者が河内音頭の輪に加わり、一緒に踊って大阪の夜を楽しんでいた。